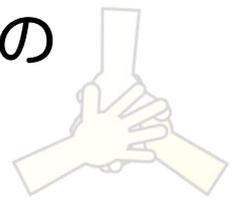


動物の四肢・関節・骨盤・脊椎腫瘍の 専門治療コンサルテーション



(Consultation service of Skeletal Tumors for Animals : CSTA)

担当獣医師：中嶋幸生（なかじまこうせい） 獣医師 博士（医学）

受付連絡先：k-nakajima@vet.ous.ac.jp（日本語／English for Asian countries）

所属：岡山理科大学 医獣連携分野 講師 / 獣医学教育病院 外科・腫瘍科
国立がん研究センター研究所 外来研究員

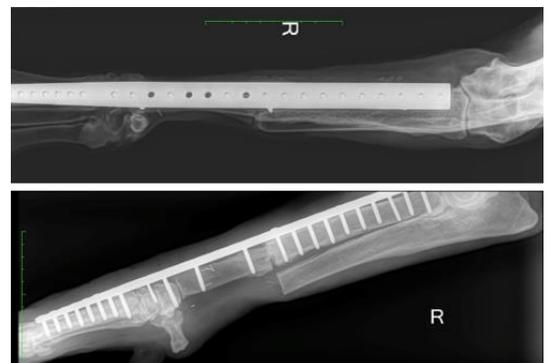
所属学会：日本整形外科学会、American Association for Cancer Research (AACR)、
日本獣医麻酔外科学会（整形外科委員会）、日本獣医がん学会、
日本放射線腫瘍学会（第一種放射線取扱主任者）、日本獣医師会

動物の四肢や背骨のがんでお困りの飼い主様・獣医の先生方へ：

小動物の診療において、四肢・関節・骨盤・脊椎に腫瘍が発生し、飼い主様をご来院されることがあります。現在のところ、特に四肢の骨、関節、骨盤に発生する腫瘍に対しては、患肢を全て切除する断脚手術が頻繁に用いられています。しかし、愛する動物の足がなくなってしまうことにショックを受け、断脚手術を受けることに抵抗があり、一緒に生活する上で不安を抱える飼い主様もおられるのではないのでしょうか。

四肢の骨、関節、骨盤に発生する腫瘍については、人の医療では切断手術をすることが近年かなり減ってきており、患肢を残す再建外科が発達しています。小動物医療においても、このような骨格器に由来する腫瘍の専門的な治療には、広い範囲にわたる高い専門的な知識と技術が不可欠です。具体的には、①整形外科学と腫瘍学の両者へ精通していること、②最先端の研究から見出された病態の理解と臨床的な技術力を兼ね備えていること、③画像診断から外科・化学療法（分子標的薬）・放射線治療など、個々の病態に応じた最先端の治療方法を持ち合わせていること、など集約的な視点が必要と言えます。

そこで断脚手術に頼らず、小動物の四肢骨・関節・骨盤・脊椎といった骨格に発生した腫瘍に対応できる知識や技術を国内外の人医学系臨床/研究施設にて身に着け、特殊化したコンサルテーションを国内外に関わらず開始することにしました。



上図：四肢の骨肉腫に対する患肢温存術

当コンサルテーションの特徴：

四肢に発生した腫瘍においては断脚を行わず、特殊な手術によって、患肢を温存する治療を目指し、飼い主様の納得する最善の治療を提案します